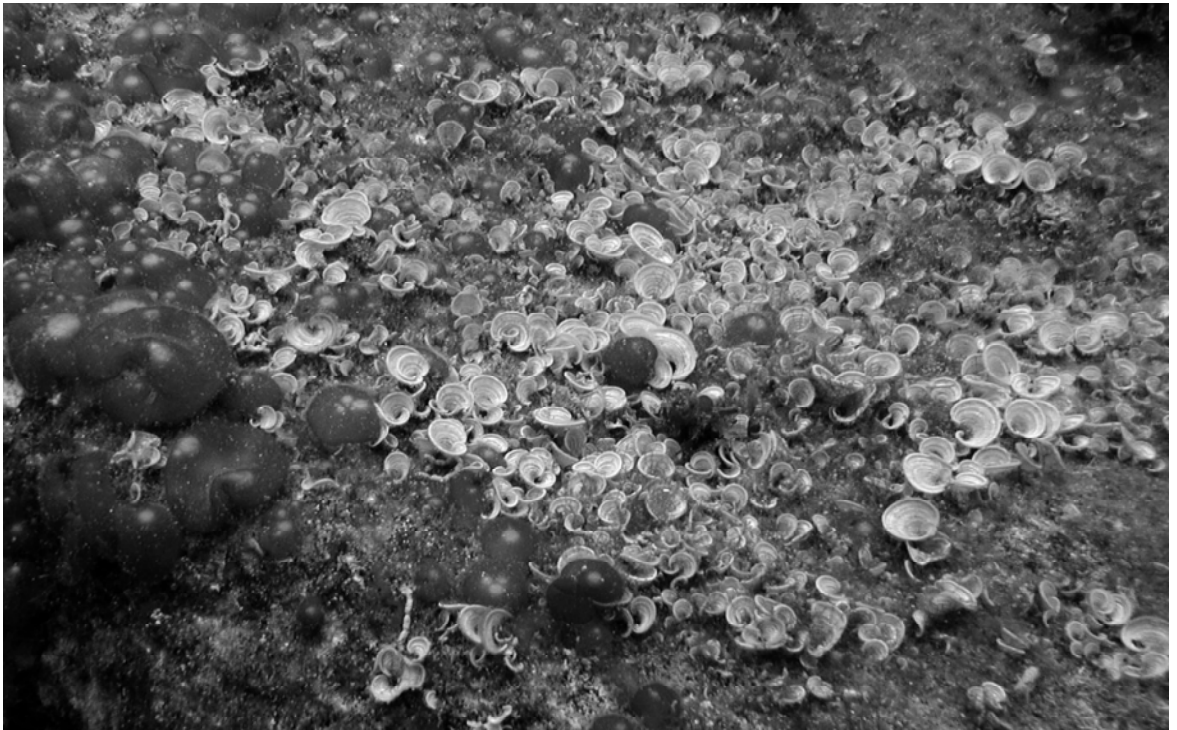


串本海中公園 マリンパビリオン

2011.3

Vol.40, No.2



ウスユキウチワ

Padina minor

体は扇形で、成長すると縦に裂けることが多い。体の縁は一方の面に巻き込まれており、見た目には縁取りがあるように見える。体に石灰質を沈着する種で、同心円状に白い模様が作られる。色は薄いオリーブ色で手触りはややかたい。体は高さ 5 ~ 10 cm程になる。磯の潮間帯付近に多く、遠くから見ると白く見える。串本ではどこでも広く見られるが、波当たりの強い場所よりもどちらかという波当たりの弱い場所を好む傾向がある。写真は 5 月串本町錆浦の潮間帯にて満潮時にフクロノリと混成している様子を撮影したもの。アミジグサ目。

S.U.

南紀 浜辺の食物誌 その2

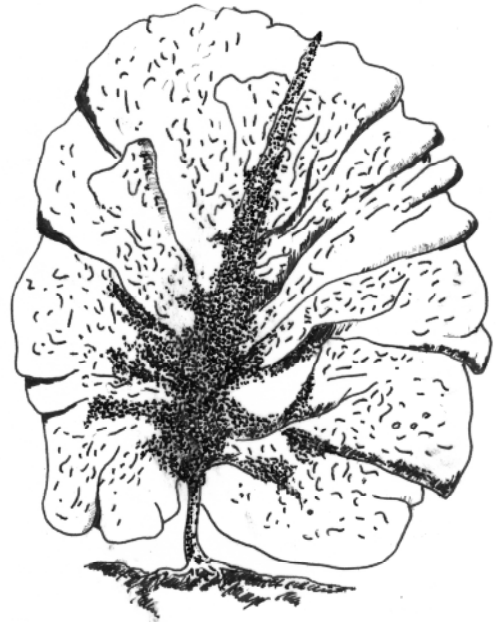
あんろくめ寿司 (ヒロメ)

宇井 晋介

日本人は世界で一番海藻類を食べる国民だと言うが、その中でも圧倒的に利用されているのが、ワカメやコンブなどコンブ目の海藻。この仲間は大型のものが多く、食味も優れているので、古くから日本人が好んで食べてきた。中でもワカメはおいしくて調理がしやすいので古くから利用されている海藻である。当館で開いている海藻のおしば教室では教室の最初に参加者が知っている海藻を挙げてもらうのだが、大人に聞いても子供たちでも面白い事に出てくる名前は大体7種。その中で必ず挙げられるものの一つがワカメである。それほどワカメは日本人の食卓に欠かせない食材なのだろう。ところが今回紹介するのはヒロメ。ヒロメはワカメと同じワカメ属に属する海藻であるが、ワカメと比べて圧倒的に知名度が低い。この知名度の低さの理由の一つはヒロメの生息域が狭いことである。ワカメが北海道から四国、九州まで広く生息するのに対し、ヒロメはそれより南の本州中部から瀬戸内、九州までの暖かいところを好む。だから寒いところの人たちにはあまり馴染みがないのだ。姿形はワカメにそっくりだが、唯一違うのがいわゆる「メカブ」がないことである。先の押し葉教室で海藻の名前を挙げていくと必ず「メカブ」という答えが出る。確かにメカブは海藻だが、正しくはワカメの生殖器官で体の一部である。ヒロメは形はワカメに似ていてもこの生殖器官がないことで区別できるのである。

ヒロメは浅い岩礁の海に好んで生え、漁港などでも上から覗くと簡単に見つけることができる海藻だが、串本でもこの海中公園のある錆浦辺りには生えない。基本的にヒロメが好む環境とは異なるらしく、以前少し行われていた養殖もあまりうまくいかなかった。サンゴの生えるような海は暖かすぎるのかも知れない。近くでは田辺市が地場の産物として売り物にしているが、串本でも東側の熊野灘側には多く見られる。

面白いことに、この辺りではこのヒロメの事をアンロクメと呼ぶ。アンロクメという海藻はないが、アントクメという和名を持つ海藻はある。アントクメも姿形はワカメやヒロメに似るが体がゴワゴワとかたく成長すると食用には適さない。もっとも若いうちはおいしく食べられるらしいのだが、串本辺りではあまり食べない。地元の方でもこのヒロメとアントクメを混同されている方も多く、いずれにしてもややこしい話である。このヒロメはワカメよりも葉が薄めで、歯触りはシャキシャキした感覚がワカメよりも強い。でも味が濃く、そのままさっと湯通しして刺身でも食べられるし、最近では地元のホテルの名物料理としてシャブシャブで出しているところもある。しかし何ととっても珍しくまたおいしいのは、「あんろくめ寿司」だろう。あんろくめ寿司はヒロメを姿形のまま醤油、みりん、砂糖などで煮て少し甘めに味をつけ、熊野の名産目張り寿司の様におにぎりに巻きつけた素朴な郷土料理。中のおにぎりは各家によって酢飯であったり、普通の白米のおにぎりであったりする。ほおばると春の磯の香りが口の中一杯に広がる料理である。



まるでうちわの様なヒロメの成体

POLYCHAETOLOGICA (58)

各科の属の検索と種の説明 (43)

オトヒメゴカイ科 No. 7 内田 紘臣

前回 (Vol. 40: 3-5) でオトヒメゴカイ科の科模式属である属 *Hesione* の解説が終わった。その最後の種 *Hesione* (?) sp. JAPON. の解説の箇所で、標本の大きさを体長 25 mm と記したが、その項を次のように訂正したい。

「...で得られた第 17 剛毛節以後の体後部を欠く全長 17 mm の 1 個体の標本である。」

今回は属 *Hesione* と同じく 8 対の触手鬚をもつ属のうち、科模式属と似た前口葉と口吻の構造を持つ属から解説を始める。これらは当然属の検索表 (Vol. 37: 48-49 & Vol. 38: 21-23) では属 *Hesione* (Vol. 38: 21, 検索表 No. 14) の近くに位置する属たちである。

属 *Amphiduros* Hartman, 1959

8 対の触手鬚をもつ。前口葉には中央感触手、1 対の側感触手、それに 1 対の分節する副感触手を具える (Vol. 38: 21, 属の検索表, 14- 右図参照)。口吻前縁は細毛をもつのみで、乳頭状突起を欠く (Vol. 38: 21, 属の検索表, 15- 左図参照)。属 *Hesione* と同じく口吻に乳頭状突起を欠くが、大きな副感触手と共に、中央感触手を持つことによって属 *Hesione* と区別される。疣足は 2 叉型で、良く発達した背疣足と、多くの背剛毛をもつ。「走り回るもの」の意である *Amphidromus* Hessle, 1925 と記載されたが、この属名は軟体動物腹足綱の属として先取されていたので、Hartman (1959) が代替属名として上記の名称を与えた。ジェンダーは男性。

属模式種はわが国から記載された *Amphidromus setosus* Hessle, 1925 である。本属には 4 種があるが、その内、属模式種を含めた 2 種は Hessle (1925) によってわが国相模湾から同時に記載されたもので、残りの 1 種はカリフォルニアから、もう一種は地中海のアドリア海から古く記録された *Oxydromus fuscescens* Marenzeller, 1875 である。

Amphiduros setosus (Hessle, 1925)

(コンボウオトヒメ 内田, 1992)

[?=*A. fuscescens* (Marenzeller, 1875)]

Amphiduros の属模式種で、上記、属の定義と同じ。触手鬚および背触鬚が太く棍棒状になるのが特徴である。背触鬚および肛触鬚には青緑色に輝く大小の紋が散布される。わが国にはもう 1 種、*A. izukai* (Hessle, 1925) が知られるが、両種は 8 対ある触手鬚の隣り合った基節のうち、どれとどれが癒合し、どれとどれが分離するかによって区別されている。しかし、筆者の標本では、8 つの触手鬚の基節と第 1 剛毛節の背触鬚の基節は放射状 3 列に並び [第 1 列: V1-D1-D2, 第 2 列: V2-D3-D4-Dn, 第 3 列: V3-V4]、Hessle (1925) の両種のどちらかに合うような癒合が見られる個体はない。従っておそらく粘液等で密着したものを癒合と誤認したものであると思われる。そこで *A. izukai* (Hessle, 1925) は表記の種のシノニムと考えられる。アドリア海からの種は永らく次に出てくる予定の属である *Gyptis* の種で、それもその属の模式種のシノニムと考えられていたが、最近になって本属の種であることが判明した。そればかりではなく本属のこれら 4 種はスウェーデンの Pleijel によって全てが 1 種 *A. fuscescens* (Marenzeller, 1875) であるとされた。すなわちヨーロッパ~アフリカ沿岸の大西洋と地中海、北米大陸太平洋沿岸、南日本~グレートバリアーリーフ、紅海と、世界中に分布することになる。

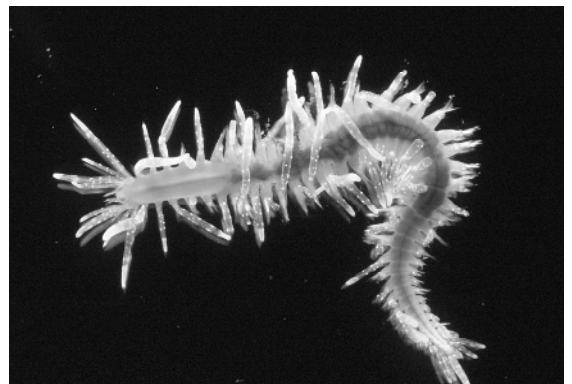


図 1. *Amphiduros setosus* コンボウオトヒメ。串本町鯖浦、水深 3 m 産

南日本の生時の本種は上記のように、水色の斑紋が目立つ非常にきれいな種である。Pleijel は生きた個体を多く観察していて、変異としてバプア・ニューギニアの個体の水色の記述もあり、その他の変異も見付かっているため、よく調べると数種を含んでいる可能性が高い。また筆者が得た個体は、かなり頻繁に八重山でも採集しているにもかかわらず、下記のように高知県以南での記録がなく、わが国における分布は中部日本温帯海域の特性を示し、熱帯系のインド洋～西太平洋型の分布を示していない。

そこでここでは南日本に産するものは地中海のものと種が異なる可能性を重視して、表記の学名を採用しておく。

模式産地は神奈川県三崎で、Sixten-Bock によって、1914 年にコンブの根から採集したとあるが、たぶんアラメあるいはカジメの根から得たものと思われる。一方、本種のシノニムと考えられる *A. izukai* は同じく S.-Bock によって 1914 年同じく三崎の水深 30 ~ 50 m で採集されたものである。ともに各 1 個体のみで、しかも模式標本は体後部を欠損している。

本種は原記載以後の新たな記録としては内田 (1988) により、串本水深 3 ~ 30 m から報告され、つづいて西村図鑑 (Vol. 31: 31 参照) で

本州中～南部の岩礁海岸水深 5 ~ 30 m に分布するとされ、同時に上記の和名が提唱された。またここに生時のカラー図が掲載されている。さらに千葉県史に千葉県での記録があり、千葉県小湊、水深 6 m 産の生時のカラー図が掲載された。また 1998 年に鹿児島県桜島、水深 10 ~ 11 m で 2 個体 (Pleijel, 2001)、同年に相模湾、水深 10 m、4 個体 (Pleijel, 2001)、さらに Rouse & Pleijel (2001) に 1998 年採集の個体と思われる小型個体のカラー写真が掲載されている。*Amphiduros setosus* を *Amphiduros fuscescens* と別種と見なせば、本種は現在の所わが国特産種である。

筆者の手元には、串本町産の標本 (大島～有田、水深 3 ~ 30 m) 31 個体と、高知県大月町水深 10 m と 20 m で各 1 個体、下関市吉見、水深 3 m で 1 個体、島根県隠岐中之島、水深 3 m で 2 個体、千葉県館山市沖ノ島で 4 個体、同県小湊町内浦、水深 6 m で 2 個体の合計 42 個体の標本がある。従って本種の分布の南限は鹿児島県桜島、北限は島根県隠岐である。

なお図 1 は鎗浦水深 3 m で 1990 年 1 月 12 日に採集された個体で、本個体の固定標本の体長は 20 mm である。

特別展示「古見きゅう写真展 WA!
海の中でも、みーんな仲良し。」開催中

串本海中公園センター水族館では、古見きゅう氏が 2010 年に発行した写真集「WA!」に合わせた写真展を開催していますので、ここに簡単に紹介させていただきます。

古見きゅう氏は当社の串本ダイビングパークにてダイビングガイドとして活動した後、水中写真家として独立しました。現在は出身地の東京を拠点として国内外の海で水中世界の美しさ、海の生き物の面白さなどを独自のユニークな視点から撮影し続けています。2007 年より串本町観光親善大使に任命されており、今回は氏の原点となる串本の海を紹介しています。ま

た、JAL 誌「SKYWARD」や「月刊ダイバー」「ナショナルジオグラフィック誌」などで活躍し続ける一方、2009 年には MBS「情熱大陸」にも出演するなど、様々な媒体で活躍中です。

今回の展示に合わせて、3 月 19 日～21 日にはサイン会やトークショーも行われ、多くのお客様に好評をいただきました。

展示概要

期間：2011 年 3 月 19 日～同年 8 月 31 日

主催：株式会社 串本海中公園センター

後援：串本町、串本町観光協会、社団法人 和歌山県観光連盟

協賛：株式会社ゼロ、SAS 株式会社、ワールドダイブ株式会社、小学館

海中展望塔に集まる魚 (34)

2010年1月～12月

小寺 昌彦

2010 年は 120 日の観察で 160 種の魚類が観察された。日別出現種数は 11 月 22 日の 70 種が最多で、4 月 4 日の 20 種が最少となり、日別出現種数の年間平均が 42.4 種となった。

月間出現種数を見ると、1, 2 月は 61, 62 種と 2009 年と比べて少なめで始まり、3 月は 54 種で 2010 年最少となった。その後 4 月から徐々に増加して、7 月に 82 種、8 月に 92 種となった。10, 11 月は 2009 年になかった月間出現種数 100 種以上を記録した。

2010 年に記録された 160 種のうち、2009 年との共通種は 125 種で、2009 年に見られなかった魚種は 35 種であった。このうち、ヤクシマイワシ?、ヒレグロハタ、タカノハダイ・ミギマキ雑種、イラ、タイワンプダイ、イナセギンポの 6 種が展望塔での初記録種となった(表*印)。タカノハダイとミギマキの雑種は、10 月から観察され始めたが、縞模様はタカノハダイに近く各縞が分かれており、体色がミギマキに近いものの唇は赤くない。尾鰭には白点が僅かにあり、尾鰭上葉は淡色で下葉は暗色というタカノハダイとミギマキの両方の特徴を持っている。このような明らかな雑種が展望塔から記録されるのは 1980 年 6 月に 4 日間だけ観察されたイシダイとイシガキダイの雑種以来となる。



図 1. タカノハダイとミギマキの雑種

この雑種はその後展望塔の周囲に住み着いたようで、年が明けてからも普通に出現し続けている。なお、同様の雑種が 1980 年代後半に近くのエビ網で捕獲され、しばらく水族館で飼育されたという記録がある。また、新たに得た標本と知見によって、これまでミノカエルウオの一種として報告してきたものをミノカエルウオに、前回 (Vol. 39, No. 2) イソハゼ属の一種としたものをミドリハゼに、それぞれ種名を変更した(表**印)。

年間出現率が 80 % (96 日) 以上の常連種は 20 種で、前年より 2 種減少した。100 % 出現したのは 7 種で、前年より 3 種減少した。前年との変化ではクサフグが 80 % 以上の常連となり、タカノハダイとツノダシ、キタマクラが 80 % 未満となった。クサフグは 2008 年より出現日数と個体数が増加して、2010 年に始めて 80 % 以上出現した。タカノハダイが 80 % 未満になるのは 2002 年以來 7 度目である。キタマクラは 1980 年から 1998 年まで 19 年連続して 80 % 以上を記録していたが、その後出現日数が減少し、2000 年以降は 3 回しか 80 % 以上となっていない。

前年と比べて 20 % (24 日) 以上の増加が見られた種はゴマフヘビギンポ (7.5 39.2 %)、イシガキフグ (33.3 61.7 %)、ゴマチヨウチヨウウオ (0 25.8 %)、ニジギンポ (6.7 29.2 %)、キビナゴ (35.0 56.7 %) の 5 種であった。キビナゴは 2009 年 10 月以降に過去にない大群で出現しただけでなく、年を越しても多く出現し続けたもので、これまであまり見られなかった夏季にも例年になく出現したことが出現日数増加の要因となっている。

一方、前年と比べて 20 % 以上減少した種はヒブダイ (67.5 12.5 %)、スミツキトノサマダイ (45.0 0.8 %)、テンジクスズメダイ (68.3 25.0 %)、ホンベラ (47.5 5.0 %)、セナスジベラ (71.7 35.8 %)、クロホシイシモチ (74.2 39.2 %)、トノサマダイ (77.5 43.3 %)、ムギイワシ (52.5 22.5 %) など 19 種にもあった。ヒブダイとセナスジベラとトノサマダイ

は水温が最も低くなる 2 月になる前に減少しており、前年の台風による攪乱によって数を減らしていたことが本年の出現日数の少なさと思われる。また、テンジクスズメダイとムギイワシの 2 種の減少は夏の異常な暑さが原因とも考えられるが、この理由は定かでない。なお、2010 年は減少した種が多いことから、日別出現種数の年平均は前年より 5.2 種の減少となった。

2010 年の特徴は 1 ~ 3 月に出現種が少なく、10 ~ 12 月に多くなったことである。図 2 に 2010 年と 2005 年の月間平均出現種数、そして 2001 年から 2010 年までの平均値を示した。2010 年 1 ~ 3 月の平均出現種数は 31.3 種で、この 10 年では非常に強い台風 (2004 年 10 月) によって展望塔への連絡橋が落下した翌年の 2005 年 (26.2 種) に次いで少なかった。2001 ~ 2010 年の平均値は 39.5 種で、2005 年と 2010 年の少なさが目立つ。2005 年は連絡橋の落下だけでなく、1 ~ 3 月の水温が非常に低く、2 つの悪条件が重なった結果の少なさであった。2010 年は 3 月下旬に旬平均水温が 16 未満となったものの、それ以外の水温が高めで推移しており、低水温による影響はほとんどなかったもの

と思われる。2010 年 1 ~ 3 月の種数の少なさは、前述した 3 種の減少例と同様に前年秋の台風の影響によって減少した魚種が回復することなく推移した結果と考えられる。また、10 ~ 12 月に魚種が多かったのは、2009 年と逆に台風の影響による攪乱が全くなかったことに由来すると思われる。前号の観測結果で記述されている通り、2010 年 10 月に台風 14 号が串本沿岸へ最も接近したが、2009 年のように大きく荒れることはなかった。この結果、多くの稚仔魚が生き残って展望塔の周辺で観察されたと思われる。

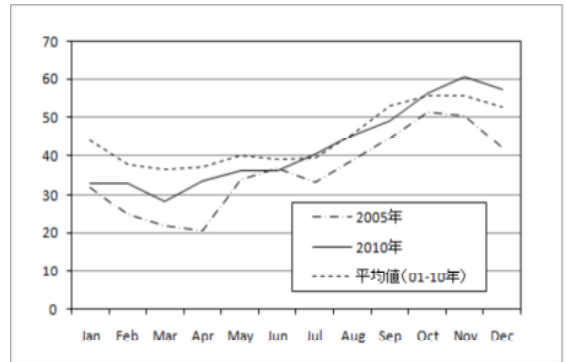


図 2 . 月間平均出現種数

種名	JFMAMJJASON	日数
アカエイ	---1-----	1
ウツボ	111-----	3
ワカウツボ	-11-1-11--	9
キビナゴ	554321222544	68
ゴンズイ	-----12111	6
アカエソ	---11111-111	13
ボラ	122-22222332	68
ムギイワシ	32222212-1-2	27
ヤクシマイワシ? *	-----2----	4
ギンイソイワシ	4431----3-21	28
オキザヨリ	-----1--	1
ヘラヤガラ	11-121111111	23
アオヤガラ	--1-1-1--222	21
カサゴ	11-111111111	22
キリンミノ	-----1	5
ハナミノカサゴ	-----11-----	2
ヒラスズキ	-1---111-1--	15
クエ	-----1---1-	2
ヒレグロハタ *	-----1----	1
スジアラ	-----1111-	9
ヌノサラシ	-----1	1
オオスジイシモチ	-----11-1111	17
クロホシイシモチ	-1-2333321-1	47
ネンブツダイ	-----1----	1
イケカツオ	-----1---	2
ツムブリ	-----1-----	1

種名	JFMAMJJASON	日数
ブリ	-111-----	4
カスマアジ	1-----12-	5
シマアジ	--1--12----	8
アオチビキ	-----1-----	2
ヒメフエダイ	1-----	2
フエダイ	1----1122--1	15
クロサギ	--211111121	29
コロダイ	-----1-11--	5
イサキ	-----111---	6
クロダイ	---1--1---11	5
ヘダイ	-----111-211	12
ハマフエフキ	---111111--1	13
ヨコシマクロダイ	-----1--	1
フタスジタマガシラ	-----22	12
アカヒメジ	---123323311	57
ホウライヒメジ	211222322222	91
マルクチヒメジ	-----11	6
オジサン	11--1-122222	43
キンメモドキ	-----1----	1
ミナミハタンボ	-----12---	3
トゲチヨウチヨウウオ	1-1-11-23222	50
チヨウチヨウウオ	222233543333	112
ゴマチヨウチヨウウオ	-----12212	31
ミゾレチヨウチヨウウオ	-----121	12
ニセフウライチヨウチヨウウオ	-----11-	3
ミスジチヨウチヨウウオ	-----1-	1

種 名	JFMAMJJASOND日数
スミツキトノサマダイ	-----1- 1
トノサマダイ	1---11222223 52
ヤリカタギ	-----1-- 1
フウライチョウウオ	-11-----1222 34
サザナミヤッコ	-----111-- 12
ノトイスマズミ	224322222223 89
テンジクイサキ	223222222223 91
ミナミイスマズミ	122211122222 54
イスマズミ	22221-111212 40
クロメジナ	223433333333 108
オキナメジナ	11-1-221-122 29
メジナ	555455555555 120
カゴカキダイ	12--11-----1 15
イシガキダイ	-----1--111 8
ヒメゴンベ	-1--1-1111-- 6
ホシゴンベ	-----11- 3
ミギマキ	221222222222 98
タカノハダイ	222222221222 84
タカノハダイ・ミギマキ雑種*	-----121 17
クマノミ	223233233333 120
アマミスズメダイ	1112111-1111 24
キホシスズメダイ	-----1----- 1
スズメダイ	-----1----- 1
テンジクスズメダイ	211221--1--- 30
ロクセンスズメダイ	---1---1222 23
オヤビッチャ	222233333323 104
イシガキスズメダイ	11-----12222 43
ハクセンスズメダイ	-----1-111 13
メガネスズメダイ	1----- 3
ソラスズメダイ	554555555555 120
セダカスズメダイ	332223322323 120
フチドリスズメダイ	222223333333 117
イラ*	-----1- 1
コブダイ	--1-----1- 2
ブチススキベラ	221222222122 74
カマスベラ	-----11 3
カンムリベラ	-----11-1-- 9
ツユベラ	-----1- 2
クギベラ	221211122222 67
ホンベラ	---1---11--- 6
トカラベラ	-----1--- 1
イナズマベラ	-----11-12 15
ミツボシキウセン	-----1--- 1
ナメラベラ	-----1-1--- 2
シロタスキベラ	-----11-1- 3
ホンソメワケベラ	222223222333 115
ノドグロベラ	-----12111 17
アカササノハベラ	333333333333 120
ホシササノハベラ	-111----- 9
アカオビベラ	-1-1---211-- 15
カミナリベラ	332322234444 111
コガシラベラ	223222222233 112
ニシキベラ	333333443333 120
セナスジベラ	11-----12223 43
ヤンセンニシキベラ	1---1--1-111 15
オトメベラ	323333223333 120
ヤマブキベラ	322222222233 112
アミメブダイ	-----1--- 2
ヒブダイ	-----11121- 15
ダイダイブダイ?	-----1-1- 5

種 名	JFMAMJJASOND日数
アオブダイ	-----11112222 33
ニシキブダイ	-----11221 25
ナガブダイ	1-----11222 24
オビブダイ	-----1-- 1
アオブダイ類(幼魚)	-----12111 17
タイワンブダイ*	-----1--1-1 4
ブダイ	332333222333 116
ワヌケトラギス	-----1-11- 4
ヘビギンボ	--111-221--- 18
ゴマフヘビギンボ	---121222221 47
ヨゴレヘビギンボ	--11-1---1-- 4
ミノカエルウオ**	-----1-111 11
セダカギンボ	-----111 4
カモハラギンボ	-----2212222 49
ニジギンボ	221-----22 35
イナセギンボ*	-----1-- 1
ミナミギンボ	-----1-122 16
テンクロスジギンボ	-----1122112 27
ミドリハゼ**	-1-1---1--1 4
クツワハゼ	----11--1111 11
クロユリハゼ	-----111-- 3
アイゴ	121122222222 68
ツノダシ	111212222222 67
ヒメテングハギ	-----1--- 1
テングハギ	-1-121112222 50
ニザダイ	322322332333 116
ヒレナガハギ	-----1---11- 7
ニセカンランハギ	111222222223 76
ナガニザ	-----22222 37
モンツキハギ	-----1- 1
サザナミハギ	-----1222 25
アカカマス	----12221-24 19
ヒラメ	1----- 1
クマドリ	-----1111 10
ソウシハギ	-----21 8
アミメウマツラハギ	-----1- 1
ノコギリハギ	-----111 4
カワハギ	111-11111111 29
ウミスズメ	11111111-211 29
シマウミスズメ	111121111112 37
ミナミハコフグ	-----1-111- 11
ハコフグ	222222222222 98
サザナミフグ	-----11----- 2
クサフグ	444432211222 97
ハナキンチャクフグ	-----1-- 1
キタマクラ	222222222222 82
イシガキフグ	122211212222 74
ハリセンボン	11-122122222 60

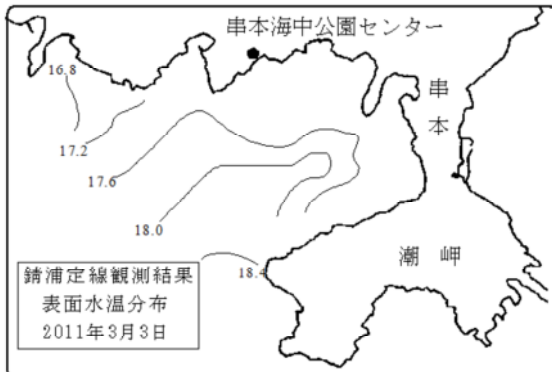
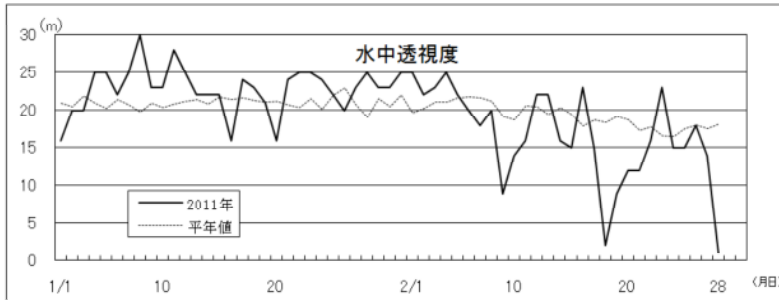
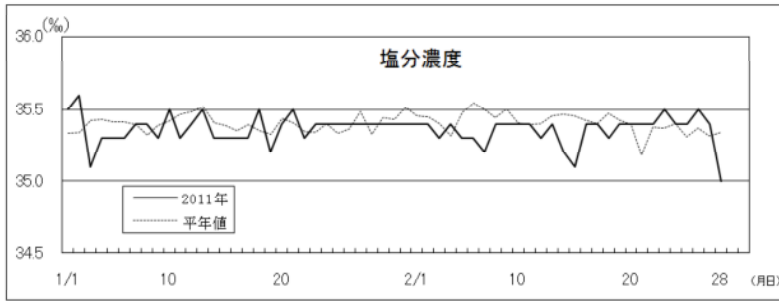
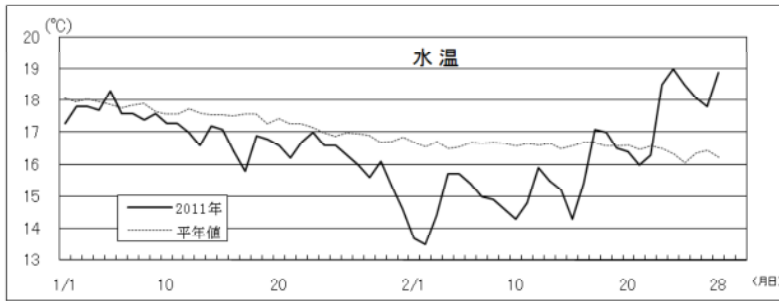
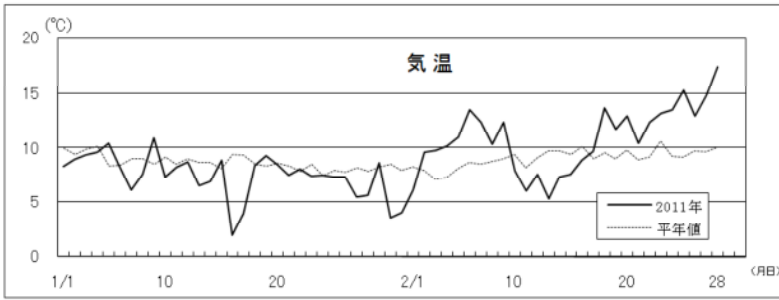
* : 塔での初記録
 ** : 種名変更種

表中の数字は月の出現度
 (1 : 少ない、2、3 : 普通、4、5 : 多い)

月 Ja Fe Ma Ap Ma Ju Ju Au Se Oc No De ALL
 出現種数 61 62 54 60 63 69 82 92 94105108 99 160

鑄浦の海から
森 美枝

平均値	1月	気温 7.4℃	水温 16.8℃	塩分濃度 35.4‰	水中透視度 22.8m
	2月	気温 10.9℃	水温 16.0℃	塩分濃度 35.4‰	水中透視度 16.6m



まるで大きな船に乗っているかのようなゆっくりとした大きな揺れだった。イベント会場に設置された 50t プールの水面に波が起き、やがて大きな波となって周囲にあふれた。だが、テレビではそれとは比べものにならない恐ろしい光景が映し出されていた。津波がありとあらゆる物を押し流していく。宮城県沖を震源とするマグニチュード 9.0 の巨大地震。イベントに参加するため出張で来ていた大阪では、近くのビルのエレベータが止まり、5 時間にわたって人が閉じこめられた。あのゆっくりとした揺れ「長周期地震動」が原因という。串本では揺れこそなかったが、最大 1.4 m の津波があり、クロマグロやタイなどが死んで、被害額は県下で 8 億円を超えた。今回の地震は、串本に住む私たちにとって他人事ではない。予想される東南海、南海地震は今回の地震に匹敵するといわれている。津波に襲われた町の姿がそのままこの地に当てはまってもおかしくない。正直、津波を少しなめているところがあった。この地震に学び、さらに意識を高めなければならない。多くの方の無念に報いるためにも。

マリンパピリオン Vol.40, No.2 通巻416号
年 6 回発行 一部100円
(年間購読料1,000円/送料含む)
発行日 平成23年3月31日

編集兼発行人
〒649-3514 和歌山県東牟婁郡串本町有田1157
(株) 串本海中公園センター
電話 & FAX 0735-62-4875
ホームページ <http://www.kushimoto.co.jp/>
印刷所 坂本印刷